

津軽白神 ふれあい通信

津軽白神森林生態系
保全センター

平成26年5月発行 No.96



エゾリュウキンカ

深浦町十二湖で森林教室を開催しました

5月24日（土）今年度第一回目の森林教室を、30名の参加者の皆さんを迎えて深浦町の十二湖自然休養林内で実施しました。

この日は朝から曇り空で、道中では一時雨の気配もありましたが、散策中は天候が崩れることも無く、心地よい散策日和となりました。

当日は、日本キャニオンを遠望し、青池、金山の池などを回りリフレッシュセンターで昼食、午後からは日暮の池、沸壺の池などを経由して十二湖庵まで、その後日暮橋から日本キャニオン間近に見るルートを通りました。

散策コースでは、ユキザサの可憐な花が咲き乱れていました。ニリンソウは満開の時期を過ぎたものの多くの花をつけ、参加者の皆さんの目を楽しませていました。

今回は、初参加の方が9名いらっしゃいましたが、皆さん口々に「景色がきれい」「楽しく散策できた」「また参加したい」と話していました。



鱒ヶ沢保育所、花いっぱい運動



5月8日（木）鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢保育所の園児19人と、保育士の皆さん、職員らが参加して、花いっぱい運動を実施しました。

この取り組みは、小さな子供たちにも自然や草花に親しみ自然環境に興味をもってもらう目的で平成22年度より行っており、今年で5回目を数えます。

好天に恵まれたこの日は、まず、保育所の齊藤所長から「おじさんたちの言うことを聞いて楽しく植えましょう」と挨拶があり、続いて当センターの石田所長より「動物や草花に親しむことができるようになりましょう。植えるときは『大きくなあれ、きれいになあれ』と声をかけて植えましょう」との挨拶があり、移

植作業にとりかかりました。

園児たちはセンターの職員の指導のもと、ベゴニアとペチュニアの苗を職員手製の木製プランターに移植していました。



みんなで並んで記念撮影

園児たちにとっては慣れない作業でしたが、職員や父兄の手を借りてどうにかプランターに、ベゴニアとペチュニアの苗を移植しました。

移植の後は、ジョウロで水やり、そして保育園の正面に並んで記念撮影をしました。

この日植えた花の苗は、上手に育てると秋近くまで花を楽しむことができます。

センサーカメラを設置します

近年全国各地の森林や農地で甚大なニホンジカ被害が発生し深刻な問題になっています。

青森県内では、ここ数年ニホンジカの日撃情報はあるものの、大規模な食害が発生したという事例は確認されていません。

しかし、昨年には白神山地世界遺産地域まで十数キロという西目屋村の大秋（たいあき）地区で、二頭の雄のニホンジカが定点カメラに撮影されており、白神山地へのシカの侵入による植生や生態系への影響が懸念されるようになりました。

そのため、当センターにおいても、過去にニホンジカの日撃情報があった地点を参考にニホンジカの監視強化のため、センサーカメラを設置することとし、5月22日（木）に、



センサーカメラを撮影する報道陣

西目屋村河原沢国有林内で、報道機関の方々に対して設置作業を公開しました。

当センター所長からは、ニホンジカの生息調査に至った経緯や、シカが撮影された場合のその後の対応などについて説明があった後、カメラの設置作業に入りました。

設置の際に報道関係者の皆さんから、「カメラを設置する期間はいつまでか」、「青森・秋田両県で何台設置するのか」、「シカの害は具体的に何があるのか」などという質問がありました。

この日は1台のみの設置でしたが、今年度当センターでは今後白神山地周辺地域を中心に22台、青森・秋田両県では45台を設置する予定です。

白神山地の貴重な生態系を保全していくために、当センターではシカ被害の未然防止のためのセンサーカメラ設置をはじめとするモニタリングの強化、違法行為などのパトロール、自然再生活動など多様な取り組みをして参ります。



取材を受ける石田所長

十二湖森林セラピー基地オープニングイベント

5月15日（木）深浦町の十二湖自然休養林で、森林セラピー基地のオープニングイベントが開催され当センターも出席しオープンを祝いました。

森林セラピーとは、医学的な証拠によって裏付けられた森林浴効果、特に森林環境に身を置くことで得られる”癒やし”効果を活かした療法のことを言います。生理的なリラクセス状態を維持することで、免疫機能を向上させ、病気になりにくい体にするを目的としています。

十二湖自然休養林は青森県内でははじめてセラピー基地として認定されました。

当日は深浦町の吉田町長から、十二湖が森林セラピー基地に認定された経緯や森林セラピーの効果についての解説を含めた挨拶があり、森林セラピーガイドの方々にユニフォームが授与されました。

その後、参加者全員で記念撮影の後、ブナ自然林から沸壺の池までの散策コースにウッドチップの敷設を行いました。

この日の十二湖は、ニリンソウ、チゴユリやユキザサなどの春の花々が咲き始め、参加者の皆さんの目を楽しませていました。



十二湖は、これから観光シーズンを迎え、多くの観光客の方々がこの地を訪れます。

当センターでは、森林教室等のイベントを通じて森林セラピー基地のPRやセラピーガイドとの連携を図り支援を行っていく考えです。



赤石溪流の観光を考える会第四回総会

4月23日（水）鱒ヶ沢町山村振興開発センターで、白神山地と赤石溪流の観光を考える会第四回総会が開催されました。

会議では冒頭、世永富也会長から「考える会の総会も4回目を迎えた。昨年は白神山地世界遺産登録20周年の記念もあり各種行事もあったが、今年度も昨年に増して地域の活性化に取り組みたい」との挨拶がありました。

赤石溪流の観光を考える会の皆さんには、例年当センターで実施している自然再生活動にも参加して頂いています。また、当センターでは考える会の観光資源マップ作成事業委員会に協力者として参画し、国有林の見どころの現地案内や動植物など写真の貸出し等の



支援を行うこととしています。

当センターでは、地元関係団体への協力や緊密な連携を図りながら、地域の一員として、地域の活性化へも協力を行って参ります。

自然再生活動を開催します。

平成26年6月28日（土）下記により鱒ヶ沢町の奥赤石地区で、自然再生活動を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

作業はどなたでも気軽に出来る内容となっており、職員が丁寧にお教えいたします。初心者大歓迎です。

100年後を見据えたブナ林への再生事業を体験してみませんか。

作業終了後は、ブナ遺伝資源保存林内の散策も予定しています。白神山地世界自然遺産地域と同様なブナの巨木を間近で感じ、ブナ林の息吹を堪能してください。

記

日 時 平成26年6月28日（土）

場 所 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町奥赤石

募集人員 20名

集合場所 青森市役所柳川庁舎前、午前7：00集合、7：10発

実施内容 広葉樹苗木の堀取り・仮植作業と、ブナ遺伝資源保存林の散策

参加費 200円（傷害保険料として）

林内で作業をいたしますので、作業が出来る服装でお願いします。

（昼食・雨具持参。帽子、長袖、長ズボン、手袋、長靴を推奨）

申し込み受付は、実施日の一ヶ月前**5月28日から6月11日**まで電話、葉書、

FAXで受け付け、申込者多数の場合は**抽選**で選考します。

グループでのお申し込みは5人以内とさせていただきます。

葉書、FAXでお申し込みの方は、住所・氏名・電話番号・グループの人数をご記入ください。

乗車予定地は、青森市役所柳川庁舎前、青森駅西口、新青森駅、五所川原 ELM、鱒ヶ沢海の駅「わんど」を計画していますので、いずれかをお知らせください。

津軽白神森林生態系保全センターホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/tugarusirakami/index.html>